

# るさつ 探訪

## 月

## 曆

### 一位・一日・一花草

二〇〇七年（平成十九）の新春であり、亥猪（いのしし）年の正月である。江戸後期（一七六三―一八二七）の俳人小林一茶の「目出度さも ちう位也 おらが春」ではないが、ほどほどの中位の今年でありたいが……。



なることがまた何でも大変なことなのである。

最近ではナンバー・ワンというカタカナ語を見聞するが、スマップの「世界にひとつだけの花」での「オンリー・ワン」が素敵な響きで歌い込まれて以来、ワン（一、一つ、一点など）の使い方にも注意されるようになったともいえる。つまり、第一号、第一番、第一人者などのナンバー・ワンよりも孤立（一つだけ、取り残されている、助けのない）ではない独自で独創に裏打ちされた「ただ一つの、それだけのオンリー・ワン」でありたいと願う初春である。

因みに、同音異義語に一意（一つのこと）に励むの一意専心や一衣帯水（一本の帯のような狭い川や海）などがあり、一位はイチイ科の常緑針葉高木のオンコ（アララギ）でもある。

じつ（は月の第一日である。特に一月一日は元旦（元朝）、元日であり、元は物事の最初、旦は早朝であることから、「一年の計は元旦にあり」といわれ、物事は初めが大事で、しっかりとした計画を立ててから実行すべきで、特に一月一日は一年のうち何をするかの計画を年の初めに立案することの大切さをいっている。

元朝や 日めくりの手も 新たり（枯舟）で、古いメモ帳には「これだけは続けるぞ」と意気込んだ一日一句の計画が書きなぐってあったが……。兎にも角にも「新雪の 二日刻みし 足の音、三日夜 炬燵と猫と メモ帳と、四日目の 作句も鈍き 松氷柱」まではよかったものの、五日目からとんと空白で……。後は思い出したような拙句ばかりであった。

一花草……一輪草（キンポウゲ科の多年草）の別名で、横道えの地下茎で増える白色（五弁花）一個の可憐な草花である。

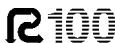
同じキンポウゲ科の多年草に二輪草があり、流行の歌ではないが、夫婦の絆を歌った「二輪草は温もりそのものといわれている。

一、き、ワンと一月の月曆に因んでというよりも「こじつけ」たような一位には、御山の大将子ども遊びで盛り土などの上に出て、のぼってくる者をつき落す（）が何時のまにか狭い分野で得意になつていばり返った「お山の天狗」になったり、一日には一にも二にも「実行可能な計画」を立てないと有言不実行の計画倒れになったり、そして何故に「花草なのかいえば、居間に困ったアロエの鉢植えに白い花をつけたひよるひよるの雑草が一つ生えてきた時の健気さを発見したことを、「わが家だけの一花草」と名づけたからであり、自己満足だけだが……。

そういえば、二〇〇六年（平成十八）の「今年の世相を示す漢字は命」であった。清水寺の森清範貫主が揮毫した特大の和紙の命は「一つしかない命の重み、大切さ」を見事に表現していた。睦月が本当におめでたく、徒らに猪突猛進することのない新年を大過も退化も滞貨もないように過ぎなくちゃ……。

（元）郷土史編集専門員  
尾池隆男

人口 / 7,736人 (前月比 3人)、男 / 3,700人 (前月比 2人)、女 / 4,036人 (前月比 1人)  
世帯数 / 3,083戸 (前月比 1戸)、出生 / 4人、死亡 / 8人、転入 / 34人、転出 / 33人 【11月30日現在】  
住民登録の手続き上、人口増減と出生・死亡・転入・転出の増減は一致しないことがあります。



本誌の印刷には、大豆インクを使用しています。  
また用紙には再生紙(100%)を使用しています。